

「協働プロジェクト」

地域円卓会議モデル事業

SR円卓会議
総合戦略部会/運営委員会合同会議資料

作成：2010年10月21日（木）
協働プロジェクト地域円卓 担当

●SR円卓会議「地域モデル事業・茨城」の事業概要案

1. 趣旨

SR円卓会議が取り組むマルチステークホルダーによる社会的責任に関する共同推進プロセスを、地域でどのように具体化できるかを実験・検証し各地で展開する上での参考とする。

2. モデル実施地域

茨城県（事務局：茨城NPOセンター・コモンズ＋SRネット茨城）

3. ねらい

今後、SR円卓会議が策定する協働戦略などを地域に普及・展開していくうえで、中央と地域がどのように連携できるかを検証し、円卓会議を全国に展開する際に必要な条件などを検討する。

4. 進め方

茨城で進めてきたマルチステークホルダーでの協議や活動を推進するためのネットワーク「SRネット茨城」を母体として、各セクターの代表者を選出し、地域課題や協働で解決するための仕組みを創る。

5. その他

SR円卓会議としては、NPO・NGOグループが中心に本件を進め、運営企画チームメンバーが「地域円卓会議」の調整・実施・検討の主体となる。

●SR円卓会議「地域モデル事業・茨城」の事業計画案

<時期>	取り組み内容 「みんなで、意見を言う、提案する、決定する、取り組む」	<協働P>
9月～10月	Step1:「マルチステークホルダープロセス」の理解促進の学習会	会合参加
10月～11月	Step2:「SR円卓・茨城(仮称)」の構成メンバーの選出と依頼	依頼協力
11月～12月	Step3:地域課題の選択のための議論(2～3テーマ)	アドバイス
2月	Step4:フォーラムの開催(SRネット茨城主催)	参加・講師
3月	Step5:協働プロジェクト実施に向けた準備	報告まとめ

●SR円卓会議「地域モデル事業・茨城」の取り組み内容案

Step1:「マルチステークホルダープロセス」の理解促進の学習会

1. 趣旨

茨城県において、マルチステークホルダープロセスの母体となる組織(仕組み)を組織化するために、その意味・意義・今後の取り組みなどを理解するための学習の機会をつくる。

2. 実施主体

- ・茨城NPOセンター・コモンズ＋SRネット茨城
- ・SR円卓会議・地域円卓会議チーム

3. 内容

- ・SR円卓会議の解説(各グループの取り組み状況含む)
- ・茨城県内におけるマルチステークホルダープロセスの取り組み
- ・その他

4. 開催時期&場所

- ・時期は10月上旬を予定
- ・場所は茨城県内(詳細は未定)

●SR円卓会議「地域モデル事業・茨城」の取り組み内容案

Step2:「SR円卓・茨城(仮称)」の構成メンバーの選出と依頼

1. 進め方

Step1の学習会を経て、具体的に地域円卓会議のメンバーを選出し、参加の依頼を行う。

2. 依頼先(イメージ)

- ・経営者協会、連合、生協、新聞社、NPO(現在連携あり)
- ・行政(県)、消費者団体、金融 など(新規)

3. SR円卓会議としての協力

- ・メンバー選出に際してのアイデアだし
- ・関係機関等への協力の依頼
- ・その他

●SR円卓会議「地域モデル事業・茨城」の取り組み内容案

Step3: 地域課題の選択のための議論(2～3テーマ)

1. 進め方

地域円卓の各メンバーから地域課題を提出してもらい、会議により優先順位を確定し、今後の議論の方向性や具体的な取り組みのイメージを出しを行う。

Step4: フォーラムの開催(SRネット茨城主催)

1. ねらい

Step3において議論された内容を基に、課題解決に向けたアプローチの方法などについてより多くの意見を聞き、議論する機会としてフォーラムを開催し、他の地域の事例や先進的な取り組みなどを学ぶ。また、県内向けのマルチステークホルダープロセスの啓発の機会とする。

2. 実施主体等

- ・茨城NPOセンター・コモンズ＋SRネット茨城
- ・SR円卓会議・地域円卓会議チーム(協力)

3. 開催時期&場所

- ・時期は2011年2月を予定
- ・場所は茨城県内(詳細は未定)

●SR円卓会議「地域モデル事業・茨城」の取り組み内容案

Step5: 協働プロジェクト実施に向けた準備

1. 進め方

地域円卓の議論およびフォーラム等で議論を通して、2011年度に協働で取り組むプロジェクトについて、その内容や実施の体制などの議論を行う。

●SR円卓会議のモデル事業としての「地域円卓会議」の結果の取りまとめの方向

①実施プロセス:各グループへの参加呼びかけ、参加のプロセス、テーマ設定など。

②実施上の課題:進める上での課題となった点。その理由 など。

③実施の成果 :成果の内容と成果が上がらなかった場合はその理由など。

※取りまとめにあたっては、モデル開催地である茨城の協力を得る。

●茨城の円卓会議の進捗状況

1. 円卓会議組織化の状況

- ・経営者協会、連合、県、新聞社、コモンズで実行委員会を組織化。
- ・今後、商工会議所、消費者団体、金融に参加を依頼する予定。

2. 事業の方向性

- ・テーマをきめ準備会合を2, 3回行い、3月に公開の円卓会議を行う計画。
- ・10年協働開催してきたNPOフォーラムを地域円卓会議に変え、年度内に開催することで合意。

3. その他(課題や調整事項など)

- ・組織を代表して責任ある発言をすることに抵抗感をもつセクターもある。
- ・セクターの代表による合意は無理でも「有識者のコメント」の域は超えたい。